

親子で楽しむ環境科学体験デー6月12日



エコアクションコーナー
葉っぱでしおりづくり



サーモグラフコーナー
へー、温度って違うもんだね



東沢公園そばで自然体験ゲーム
葉っぱで名札づくり



葉っぱ神経衰弱
同じ葉っぱはどれた



ペーパークラフトコーナー
人気は「カブトムシ」「クワガタ」、「ザリガニ」、「テントウムシ」に「カクレクマノミ」

6月は環境月間です。親子で遊び、体験しながら、環境について考えてみました。



比べてみよう
台所で流す水と川の水



空き箱やポスターで作ったパズルで遊びました



大声大会
1位 あおきよしたかくん 108.0デシベル
2位 めのかわりょうたくん 103.0デシベル
3位 こじまあさひくん 102.9デシベル
声の大きさは電車が通る時のガードの下なみ!



ソーラーカーコーナー
くもっていたので懐中電灯を使ってレース



あっ！色が変わった！！
酸性とアルカリ性実験
(酸性雨)コーナー

6月12日 最上川水環境研究発表会



今後の最上川の水環境に関する研究の発展を図るため、研究発表会と意見交換会を行いました。発表の演題は

最上川の水質変化と水質指標の検討 (環境科学研究センター 澤)
住民参加水環境モニタリング調査報告

(美しい山形・最上川フォーラム清流部会 大泉 茂 氏)

最上川の水質形成機構と変遷 (米沢中央高校 佐藤 五郎 氏)

導水による小牧川の水質改善について(山形大学農学部 前川 勝朗 氏)

木炭に担持した微生物によるCOD除去速度の測定

(山形大学工学部 高畑 保之 氏)

意見交換会では、「川の実態を把握するには、水質だけでなく、水量を合わせて考えることも重要。」「県民の意見を聞きながら、清流化指標を考えることが大切。」という意見が出されました。

小学生による水環境活動展示 6月12日~6月25日

環境科学研究センターでは、環境情報棟において、総合的な学習などで「水環境」に関する取組を行っている小学生たちの活動を展示し、紹介しています。その中から、4校の先生にお話をお聞きしました。

【展示小学校(順不同)】

鶴岡市立三瀬小学校(三瀬川)・長井市立豊田小学校(白川)・米沢市立関根小学校(羽黒川)・遊佐町立西遊佐小学校(西通川)・舟形町立舟形小学校(小国川)・山形市立高瀬小学校(村山高瀬川)
新庄市立泉田小学校(水辺の生き物調査隊)
米沢市立三沢東部小学校(ゲンジボタル)・大石田町立田沢小学校(ホタル)

豊田小学校(長井市) 渡辺先生

白川沿線を回りました。草花の名前を当てたり、好きな花を押し花にしたり、最上川と白川の合流地ビューポイントで1年から6年までみんなで川柳を詠みました。

また、児童たちは地区公民館の「白川セミナー」に自主的に参加しています。今年は4年生が「川との関わり」に取り組んでいます。



高瀬小学校(山形市) 有川先生

4年生の総合的な学習の中で、村山高瀬川の湧水と湧水に住む「ハナカジカ」を取り上げました。きれいな湧水を守るためには山の木が必要なことなどを学習しました。5年生になり、「環境を守っていかねばいけぬ。自分たちでできることを考えていきたい。」と思い、村山高瀬川の環境を守ることに取り組みました。

児童は、身近にできることがわかってから積極的に取り組むようになりました。その結果、給食を食べ残しをしない、無駄遣いをしない等という児童の取組が見えるようになりました。自分たちで課題を解決していく力がついてきたと思います。今後の課題として、家の中で実践していくよう指導しています。



関根小学校(米沢市) 長谷川先生

関根地区は真ん中に川もあり、水窪ダムも近くに有り、自然豊か。地域の自然、水の人への影響を主体的に調べてほしいと思い、4年生の総合的な学習で取り組みました。内水面試験場の方の話を聞いたりと色々な魚がいることを知り、自然を大事にしようという気になりました。水生昆虫を調べ、羽黒川はきれいといわかりましたが、川の水は飲めるのか、なぜ川の水を水道水にするのかをさらに調べ、川の水には雑菌がいるけど水道水は安全だとわかりました。

成果としては、川に対する理解が深まり、自然に気づき、人間にとって大事だということに気づきました。5年生になり、勉強したことが生活の中で出てくるようになりました。



舟形小学校(舟形町) 安部先生

4年生で「身近に感じる小国川」を取り上げ、「自慢できる小国川」調べに取り組みました。児童たちは7つのテーマに取り組んだ結果、自慢できると思っていたのに鮎が少なくなってきたなどの現状を知ってショックを受けたりしながらも、各班とも「環境を守っていかないと」という結論になりました。新しい年度になり、5年生になった児童たちが、自ら小国川に改めて出向き、ゴミ収集などしながら「自分たちができること」として「もっと川をきれいにしないとイケない」と強い意識を持ちました。学校でもこの児童たちの提案に取り組もうと思っています。



置賜ホットニュース

みどり推進機構 三森 和裕

最上川 その1 「源流」

最上川は県内を流れる母なる川。最上川の上流、置賜地域のお話を中心に最上川を考えます。

川の源流はどこですか?最上川源流の碑が、西吾妻のスカイラインの赤滝、黒滝の見えるところに建っています。源流部周辺はわかりますが、葉っぱのしずくが落ちる、その1点の場所はわからないものです。

川の長さは、地図上で測るということです。最上川の長さは、238.72mというのが地理学者五百沢智也氏の測った距離です。一般的(国土交通省)には229キロと言われておりますので、9キロメートル長いこととなります。長井橋付近で飯豊から流れてくる白川が合流します。合流地点までは、大きく見ると最上川(旧松川)は6系統、白川は2系統で、計8系統の流れを持っています。

いずれにしても、河川の源流地点は地図には表現しなくても良いということになっているようです。やはり自分で行って確かめることしか、本当のところはわからないということです。地図を眺めて自分で距離を測って見ましょう。

環研センターを利用して

山形大学教育学部 今村助教

センターを訪れたのは地域環境教室の一つです。山形にこういう施設があり、学生は環境に興味があります。県民にどう活動・情報提供をして環境学習・環境教育に取り組んでいるかを、現場を通して分析から情報提供までを知らせるためです。

大学には情報の集積、まとまった展示がないので授業の場として有益と考えています。

学生には「施設の活用の仕方」、こういう施設とどのようにつきあっていくか、その糸口をつかんでもらえればと思っています。学生は他県からも多く来ています。それぞれの地域の取組、特に県の取組を体験してもらいたいと考えています。



ほっとnews ほっとnews ほっとnews ほっとnews ほっとnews ほっとnews

生態学講座開講します

環境科学研究センターでは、豊かな山形県の自然を次世代に引き継いでいくため、これまで以上に自然環境の保護活動が活発かつ充実したものとなることをねらいとして「山形環境大学~生態学講座~」を開講します。

【申込・お問合せ】0237(52)3124

募集します!環境保全活動

地域とともに活動し、他の地域や団体でも活用・活動できるモデル的環境保全活動を募集し、実施する団体を助成。助成額:10万円~30万円 締切:7月2日 プレゼンテーション:7月12日(月)13時より、当センターにて。

【申込・お問合せ】0237(52)3124